

2066. 世界のサンゴ礁

[IV] 次のページの図を参照しながら、次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を、解答欄に記入しなさい。

図の海域の灰色部分は、(1)礁が分布するところである。これには明瞭な偏りがある。(1)礁を構成する生物の多くは(2)性の生物から構成されており、赤道を挟むほぼ両(3)線の間(2)海域に限られている。インド洋と太平洋は両(3)線間に(2)海域が狭く、(2)性の生物の交流があり、構成する種類は共通している。他方、大西洋は両(3)線間の海域で見るとインド洋・太平洋と異ならず、インド洋・太平洋とは種構成が異なっている。

(1)の種類の数が最も多く(1)礁の面積が大きい海域は濠洲地中海で、国でいえば(4)である。ここは、現在見られる礁の主役の(1)が発生し集えたテーチニス海の末裔とも言える場所である。大西洋はこのテーチニス海から早い時期に分離したために、インド洋・太平洋と比べると独自の進化を遂げたのである。

(1)礁の分布をよくみると、インド洋、太平洋、大西洋いずれも西部または西端に分布が集中している。大西洋ではほとんど(5)海に限定されていると言ってもいい。この西に偏る最も重要な因子として海流の動きを挙げる事ができる。太平洋の西側みると(1)礁が他海域と比べて(3)線を大きく超えている。これは太平洋を東から西に横断してきた(6)海流が、北に向きを変えて黒潮となり、勢いよく(2)水塊を高い緯度方向に運んでいるためである。太平洋東縁の両(3)線間では(1)礁の分布範囲は小さい。これは、北からカリフォルニア海流が、南からは(7)海流が流れ込み、さらに深海からは冷たい湧昇流が見られるためである。

(1)礁が西に偏る理由はもう一つある。(1)礁の主役である(1)は共生する単細胞生物との関連から浅瀬でのみ生息する。その浅瀬が大洋の東部には少ない。太平洋西部に見られる(1)礁集中域のうち、西部は前述の(4)およびその周辺海域であり、ここでは火山島など高い島が続き隆起地域となっており、ターウインのいう熱礁が分布する。(1)礁集中域の東南部に

はトゥアモトゥ諸島がある。ここはターウインの equal 時代に Low Isles と呼ばれたように、海面付近にターウインのいう(8)礁のみが分布している。火山島など高い島は全くなく、長く湛降してきた海域である。

南米大陸大西洋岸と赤道が交わる部分では、大洋西縁の両(3)線間でありながら(1)礁がほとんど見られない。この地は世界最大の流域面積を誇る(9)川の河口の周辺域にあたる。(1)は外洋と同様の(10)分潤度と清澄な水が必要とするが、(9)川は(2)気候下の河口でありその河口からは大量の淡水と泥を排出する。河口からかなり離れた場所であってもその影響は大きく、(1)礁が形成されないのである。



(以上)

2002年海峽地形

A日程 商学部(第1部) 2/4実施

[I] 次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

海岸付近に分布する砂や礫は、海食崖や川から供給され、波(海浜流)や(1)流によって運ばれて、堆積してきたものである。うねりや風波が汀線に近づくと海底との摩擦で波がくだけるがその場を(2)帯という。波が(2)帯に対して斜めに進入する場合、(2)帯と汀線の間(1)流は著しくなり、(1)漂砂(または漂移)が生じる。

(1)流によって汀線沿いに運ばれてきた砂礫は湾入部に入っても漂移を継続し、湾と外洋を隔てる形で細長く突き出る。一般にその先端部は多少湾側に湾曲しており、この平面形態から(3)帯と呼ばれる。この例として、伊豆半島西岸戸田湾口や(4)のものを挙げることができる。湾入部に入っても湾側に深く入り込まないからである。ここでは(2)帯が湾入域に入っても湾側に深く入り込まないからである。比較的多くの書籍などには、(3)の定義としては、砂礫の州が対岸には到達しないものと示されているが、形成過程を重視する立場から見ると宮津湾内の天橋立は(3)に含まれる。

(2)帯付近では、海底の砂礫からなる帯状の高まりが汀線にはほぼ平行に形成されるが、これは(1)州と呼ばれる。干潮時には海面上に現れることもあり、陸化しているものもある。(1)州で閉塞された水域は外洋の波や流れによる侵食から免れるために、ここに川が流入する場合には(5)が形成される。(5)の形成いかんにかかわらず、閉塞された水域は徐々に浅くなってゆが、このような埋め残しの比較的浅い水域は(6)と呼ばれる。北海道の(7)湖や干拓前の八郎潟にはこのような(6)がみられる。あるいはみられた。

砂浜海岸の汀線に近い浅海に島が位置する場合、島と陸域との間に切れ目のない砂州が形成されることがある。これは島陸で流れが弱まって砂礫の堆積場が形成されるためであるが、この砂州は(8)、島は陸繋島と呼ばれる。陸繋島の例として函館や(9)のものを挙げることができる。

暴浪が浜を遡上し波の到達限界付近に粗い砂礫を堆積すると、堤状の堆積地形ができる。外洋に面する浜では、これが汀線に沿って長く続く。これは(10)と呼ばれる。砂浜海岸にはよく見られる地形である。離水した(10)上には砂丘が載っている。

- [語群]
- | | | | |
|---------|--------|--------------|----------|
| (ア) 離岸 | (イ) 桜島 | (ウ) 浜堤 | (ロ) 扇状地 |
| (カ) バーム | (ク) 砂嘴 | (ケ) 沖合 | (ハ) トンボロ |
| (キ) サロウ | (コ) 塩湖 | (セ) 砕波 | (ニ) ラグーン |
| (ク) 洞爺 | (ケ) 沿岸 | (ソ) 沖浜 | (ホ) 三保松原 |
| (コ) 三角州 | (ク) 潮岬 | (タ) ロングアイランド | |

2008 海岸地形

[I] 次の文を読んで、以下の間に答えなさい。

リアス式海岸は日本でも各所に認められる。F.P.シェパードによれば、これは(1)とともに、陸上侵食性海岸のうちの、(2)海岸に分類されている。ここで陸上侵食性とは海岸線が陸上での侵食に強く由来していることを意味し、(2)は、相対的な海水準の上昇によって海水が陸域に進入して形成されたことを示している。かつての陸域の谷は湾入部になり、かつての山¹後部は岬や半島になった。

このようにして形成された海岸は、三つの過程を通じて変形されてゆく。この観点から、海岸は侵食海岸と堆積海岸に分けることもできる。リアス式海岸は、侵食海岸と堆積海岸の二面性を持つ。海岸侵食の大きな原因の一つが波である。波は(3)に応じて加折する性質があり、外洋からの波は岬部で収束し、湾入部で拡散する。つまり、^④岬では侵食作用が、湾入部では堆積作用が卓越することになる。

問(A) (1)~(3)に入れるのに最も適当な語句を次の語群から選び、その記号をマークしなさい。

[語群]

- (ア) 沈水 (イ) 隆起 (ウ) 離水 (エ) エスチュアリー
(カ) 荷重 (ク) 海底地形 (ケ) 海岸平野

問(B) 下線①に該当しない海岸は次のいずれか。最も適当な語句を次の語群から選び、その記号をマークしなさい。

[語群]

- (ア) 湘南海岸 (イ) 三陸海岸 (ウ) 若狭海岸

問(C) 下線②に関連して(1)に対応する(2)前の地形は次のいずれか。最も適当な語句を次の語群から選び、その記号をマークしなさい。

[語群]

- (ア) 大起伏地形 (イ) 小起伏地形

問(D) 下線③の三つの過程の順序が正しいのは次のいずれか。最も適当な語句の組み合わせを次の語群から選び、その記号をマークしなさい。

[語群]

- (ア) 運搬→侵食→堆積 (イ) 堆積→運搬→侵食
(ウ) 侵食→運搬→堆積

問(E) 下線④に関連して、次のa群の用語に対応する最も適当な説明をb群から選び、その記号をマークしなさい。

[a群]

1. トンボロ 2. 砂嘴 3. 砂州

[b群]

(ア) 海岸線から延長する方向に突堤状にのびた堆積地形で、三保松原がその例。

(イ) 湾口を壱ぐ形で形成された堆積地形で、弓ヶ浜(夜見ヶ浜)がその例。

(ウ) 沖からの波が陸に近接した島と陸の間で打ち消しあって形成される陸と島を結ぶ堆積地形で、この島に対応する例としては、函館山がある。